

国連先住民族常設フォーラム（UNPFII17）における琉球民族独立総合研究学会による声明文

(Item4, 2018/04/19, 10:00-13:00 & 15:00-15:30)

ぐすーよー、ちゅーをうがなびら。 姉妹兄弟の皆さん、こんにちは。

私たちは、1879年に日本に侵略されるまで独立国であった琉球（沖縄）からやって参りました。今日、琉球人は琉球の島々のみならず、世界各地で暮らしています。

2014年、国連自由権規約委員会（CCPR）は、日本に対し、「締約国（日本）は、…、アイヌ、琉球及び沖縄のコミュニティの…権利を十分保障する…べきである。…」との勧告を行いました。（CCPR/C/JPN/CO/6, 段落26）

さらに、同年、国連人種差別撤廃委員会（CERD）は、日本に対し、「委員会は、ユネスコによる独特な民族性、歴史、文化及び伝統の承認にもかかわらず、琉球／沖縄を先住民族として承認しない締約国（日本）の立場を遺憾に思う。…」との見解を表明しました。（CERD/C/JPN/CO/7-9, 段落21）

しかしながら、2016年、日本政府は琉球人が先住民族であることを否定しました。

これより、私たち琉球人が直面している3つの問題について説明します。

まず初めに、琉球（沖縄）における植民地化と軍事化は今なお厳しい状況です。

沖縄島のおよそ20%が米軍基地に占領され、そのことに日本政府が加担しています。

さらに、多数の琉球人が反対しているにもかかわらず、日米は、NIMBY（ニンビー：“Not In My Back Yard”（我が家の裏には御免）の略語）の態度のもとに、新たな軍事基地の建設を強制的に進めており、その結果として女性や子供たちに対する性的暴行が発生し、教育環境の脅威となっています。

この日本政府の行為は、持続可能な開発目標（SDGs）に反し、そして、「先住民族の権利に関する国際連合宣言（UNDRIP）」第14条、及び、第25条から32条に違反しています。

2番目に、多くの琉球民族の遺骨、そしてアイヌ民族やアメリカ先住民族の遺骨が、墓より持ち去られ、それらが100年間近くも未返還である状態が続いています。

この行為は、「先住民族の権利に関する国際連合宣言（UNDRIP）」第12条に違反しています。

そして最後に、私たちが強調したいことは、1879年より以前に琉球國が独立国であったことを日本政府が認めるかどうかについて回答することは非常に困難であると、日本国の安倍晋三首相が2015年に公式的に発表したということです。

琉球國が独立国として歴史的に存在していた事実を否定する日本政府の行為は、「自由権規約（市民的及び政治的権利に関する国際規約）（ICCPR）」第27条、及び「先住民族の権利に関する国際連合宣言（UNDRIP）」第8条、第13条、そして第15条に違反していると私たちは考えています。

私たちは、日本政府が直ちにすべての問題を正すべきであることを勧告し、さらには、要求します。

いっぺーにふえーでーびる。ありがとうございました。

